

【テーマを設定する】

泥でできる遊び 形のないもの

活動①どろんこ遊び

という「問い」をもとに、

【環境】

●準備した物:どろんこ遊びができる環境

【探究活動を実践する】

- ・乾いた砂が泥に変わる様子を観察。
- ・手足で泥のトロトロ、ザラザラした感触を直接楽しむ。
- ・水を含むと形が作れることの探求
- ・砂場に水を引き、乾いた砂が泥に変わる様子を観察。手足で泥のトロトロ、ザラザラした感触を直接楽しむ。

【活動スケジュール】

時間:10時30分

場所:どろんこパーク



【振り返りをふまえた気づき】

「水の流れを止めるにはどうするか」など、自然と子供同士の協力や試行錯誤が生まれていた。

最初は泥を嫌がっていた子が、指先から少しずつ慣れて(受容して)最後はダイナミックに遊んでいたという変化が遊びを通して学びに繋がっていると感じた

【テーマを設定する】

形が出来る作品に色を付ける

活動①紙粘土あそび

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: 紙粘土・絵の具・筆

【探究活動を実践する】

- ・「伸び」や「柔らかさ」の変化を試す
- ・指先だけでなく手のひら全体でこねる
- ・砂や泥とは違う感触、思いの形を作れる

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: 5歳児クラス



【振り返りをふまえた気づき】

- ・思い通りに形が出来ない子どもはどのように対応したか。
- ・「上手に作れたか」という結果よりも、「指先をどう動かしていたか」という制作過程が大切であると感じた。
- ・紙粘土への色塗りは、単なる「仕上げ」ではなく、「色彩の変化」や「質感のコントロール」を科学的に捉える探究活動と思う。

【テーマを設定する】

どろんこ遊び

活動①泥遊び(水の流れについて感じる)

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物:砂・水・泥・しゃべる

【探究活動を実践する】

- ・紙粘土で「形あるもの」を作った経験から、今度は泥を使ってより大きな「構造物(川や溝)」を作る活動へと発展した。
- ・一人が掘り、もう一人が水を運び、もう一人が土手を作るという、自然発生的な役割分担と協働作業を行っていた。

【活動スケジュール】

時間:10時30分

場所: どろんこパーク



【振り返りをふまえた気づき】

- ・体全体を使ったダイナミックな環境構成へと遊びが深化していた。自分たちの体より大きな『川』を作ることで、空間を捉える力が養われていると感じた。
- ・「ここに水を流したらどうなるか？」という仮説検証が随所に見られた。水が溜まる場所と流れる場所の違いに気づき、スコップの角度を調整する姿は、科学的な探求だと感じた

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクール恵比寿南 7月 報告書

【テーマを設定する】

回転ロケットを飛ばそう

活動①ロケットを飛ばそう

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: ロングの袋

【探究活動を実践する】

回転してよく飛ばすにはどうしたらよいかを皆で考えた。羽の角度や形によって、ロケットの飛び方(回転・滞空時間)はどう変わるのか？
重さと回転エネルギーの関係について。

・学研科学タイム利用

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: 5歳児クラス



【振り返りをふまえた気づき】

- ・最初は回転せずにそのまま落ちてしまった子どももいたと思う。どこを修正して改善したのか？
- ・この活動をきっかけに、空気抵抗や宇宙に興味を持った子どもはいたか？」
- ・重さと回転の関係性に気づく子どもがいたことには驚いた

【テーマを設定する】

空気の力でスライダー発射

活動①空気の塊を飛ばしたり、形を観察

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: 大きなビニール

【探究活動を実践する】

- ・空気をつかまえない、どうしたらよいか皆で考えた。
- ・大きなビニール⇒空気を入れるにはどうしたらよいか→結んだらどう？
- ・空気を入れるにはどうするか考えた。
- ・中であおぐと中の空気しか入らない
- ・外の空気も入れたい どうしたらいいか考えた
- ・学研科学タイム利用

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: 5歳児クラス



【振り返りをふまえた気づき】

- ・空気は力持ちであることを自分たちで意見を出し合うことで、発見することが出来ていた。
- ・体験を入れたことで空気は力持ちであることを感じとる事が出来ていた。

【テーマを設定する】

色の不思議を楽しもう(色・立体視)

活動①赤いセロファン虫メガネで色々なものを見てみよう

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: 赤いセロファン、虫メガネの形の厚紙

【探究活動を実践する】

赤いセロファンで部屋中を見渡し、何色が見えなくなるか、色の変化はあるか等、実践していく。

・学研科学タイム利用

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: クラス



【振り返りをふまえた気づき】

- ・赤いセロファンでライオンの絵を見て、緑色が見えなくなることに気付くと、部屋中の玩具や物、窓の外を見て、色の変化を楽しむ姿が見られた。
- ・一つの問いかけから、気付いたことを伝え合ったり、次のものに目を向け、発見する力を見出すことが出来ていた。
- ・保育者から伝え、教えるのではなく、お子さま自身が興味を持ち「なぜだろう」と考え、発見したり答えを見出せる環境作りの大切さを感じた。

【テーマを設定する】

引き合う、離れる、磁石パワー

活動①磁石の引き合う力、反発する力を探求する

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物:磁石・

【探究活動を実践する】

- ・S極とN極を近づけ、「吸い付く力」と「反発する力」を体感。
- ・別の磁石をつけて触れずに交代
- ・学研科学タイム利用

【活動スケジュール】

時間:10時30分

場所: 5歳児クラス



●職員カンナが振り返りをふまえた気づき】

- ・「水の中でも磁石の力は届くか？」など、環境を変えた実験に繋がっていくとよいと思いました。
- ・どうしたらまっすぐとまるかなど、子ども同士で考えながら行っていた点が探求心に繋がっていると感じた。
- ・「見えない力」で動くことに驚き、魔法のように楽しむ姿が見られたkが伝わった。

【テーマを設定する】

みんなの目は不思議(錯覚)

活動①絵に色を塗り、竹ひごを挟むようにして貼り付ける

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: 竹ひご・絵が描いてある紙2枚

【探究活動を実践する】

- ・2本の棒はどちらが長いのか、どのリングが大きいのか
 - ・魚の色は何色に見えるか、同じ長さや同じ色などについて見たものを元に考えたり予測を立てて実践する。
 - ・大きさだけではなく、「残像」についても学んだ。
- 二枚の絵を竹ひごに挟み、クルクル回すと、重なって見える実験も行った。
- ・ 学研科学タイム利用

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: 5歳児クラス



【振り返りをふまえた気づき】

- ・講師の話をよく聞き、感じたことや考えたことを率先して発言できるようになってきている。
- ・講師の説明をよく聞き、次はどうなるかなど予測を立てて話し合い、友だちの考えも聞き、自身と異なる意見にも耳を傾けたり、賛同することが出来るようになっている。

【テーマを設定する】

こすると生まれる不思議な力

活動①静電気でどんなことができるのだろう？

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: 下敷き/ティッシュ

【探究活動を実践する】

●活動内容

下敷きで薄いティッシュを持ち上げられるか？→
ハンカチでこすると、静電気のですぐについた。

【実験】他、どこだとつかか？→紙、窓、髪の毛、洋服
紙コップ、底辺と底辺くっつける。

ストローにハンカチで静電気がおきるようにこする

赤いストローの上におく

黄色ストローに消しゴム

予想をたてる ・学研科学タイム利用

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: 5歳児クラス



【振り返りをふまえた気づき】

・予想をたてて、実験を行うことに繋がったことで、なぜつかない？
なぜつく？との考え探究活動になっていると思った。

・綿だとかつかない、毛だとかつかいことに気がついたことは探求
されている姿だと感じた。

身近なもので出来る実験であるところがよい。

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクール恵比寿南 1月 報告書

【テーマを設定する】

陶芸教室

活動① 土から形へ、そして作品へ。

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物: 陶芸講師・陶芸用砂・土台・粘土板

【探究活動を実践する】

- ・紙粘土との違い(重さ、冷たさ、弾力)を肌で感じる。指先の力加減で厚みが変わる「土の素」体験する。
- ・「乾燥」し、さらに「焼成(火を通す)」されることで、色や大きさが変わる(収縮する)という科学的な変化を予測・理解する。

【活動スケジュール】

時間: 10時30分

場所: 5歳児クラス



【振り返りをふまえた気づき】

- ・一つの作品を作り上げるという『工芸家』のような真剣な眼差しが見られたと感じられる活動であった。
- ・日常では扱えない「本物の素材」をコントロールし、形にしたことで得られた自信に繋がったと考えられる。
- ・集大成として、最後までやり遂げる姿が見られた。
- ・完成後の焼き上がりが届くまでの待つ時間も、一つの探究として捉えたいと思う。

【テーマを設定する】

乾いた砂と湿った砂の感触を楽しもう

活動①砂と泥水遊び

という「問い」をもとに、

【環境をデザインする】

●準備した物：砂場用玩具・水

【探究活動を実践する】

- ・陶芸体験を思い出しながら、砂場で再現したり実践して楽しむ。
- ・イメージしたものを自分の手で作り出す過程を楽しむ。

【活動スケジュール】

時間：10時30分

場所：



【振り返りをふまえた気づき】

- ・陶芸体験をしたことから、砂場遊びでも、水と砂の割合を調整して楽しむ姿が見られるようになった。
- ・また、好きな形を頭の中でイメージし、指先を使って形にしていくな過程を楽しむことも出来るようになってきている。
- ・体験したことを身近にあるものを使って再現したり、工夫して展開することが出来るようになってきた。